

【農林水産大臣賞】

【過去から未来へ】

栃木県

佐野日本大学中等教育学校

一年

石川

未彩

今、私たちの家の水道のじゃ口から出てくるきれいな水は、先人の血と汗となみだの結晶です。

私の暮らす栃木県には、安積疏水、琵琶湖疏水と並ぶ日本三大疏水の一つ、那須疏水があります。那須疏水は、初代栃木県令の鍋島幹、地元有力者であった印南丈作と矢板武らの尽力により、明治十八年九月、那須野が原大農場の飲用、かんがい用として完成しました。

小学四年の秋、私は校外学習でその那須疏水を訪ねました。那須塩原市の那珂川では水の取り入れ口を見学しました。石を組んで作られた水門はコケがむし、とても重厚で、その姿は今でもよく覚えています。その取り入れ口は、これまでに大きく四回改築されており、いかに維持が大変であったかがわかりました。

那須野が原博物館では開拓の様子や疏水完成までの過程を学び、おけを使った水運び、もっこをかきいで石運びの体験をしました。石は想像以上に重く、運び終わってしばらくは肩が痛みました。朝から晩までこの作業をした人たちがいたなんて、とおどろきました。私には到底できそうにありません。

工事は難航しました。水路ができて水がしみこんでなかなか流れなかったこともあったそうです。私は、川や湖から水を引くことがこんなに大変なことだとは知りませんでした。あきらめずに努力し、工事をすすめた先人たちを尊敬します。

疏水が完成した那須野が原は、大規模な稲作地帯となりました。そして疏水は発電、蒸気機関車の給水源にもなり、地域の発展に計り知れない恩恵をもたらしました。

今、家のそばの川を当たり前のように水が流れるのも、先人たちの努力があったからです。私たちはこの川を守る使命があります。川を守り、水を守るために私にできることを考えてみました。

まず一つ目は、汚れた水を川に流さない工夫をすることです。汚れた水をきれいにするためには、大変な量の水とエネルギーが必要になります。台所では洗剤を使いすぎないことや、食べ残した汁や油を直接排水口に流さないこと、風呂場ではシャンプーやトリートメントの量を減らすこと。毎日のことなので少し気をつけるだけでも川に流れる汚れの量を減らすことができます。

そして二つ目は、地元で作られたお米や野菜をたくさん食べることで。現在、食料自給率の低下や農家の高齢化など、日本の農業を取り巻く状況は決して明るいものではありません。私の家のそばにもきちんと管理されずに草が生い茂っている田や畑を時折見かけます。耕作されない土地が増えることによって、水路も使われなくなり傷みます。そのような水路はやがて水が流れなくなってしまうかもしれません。カラカラになった水路には生き物もすめなくなりません。もう作物を育てることもできません。土地は荒れ果ててしまいます。それは、先人たちの血のにじむような努力と知恵、技術を無駄にすることになります。

私は今、お米や野菜をつくることはできません。けれども、ご飯をたくさん食べることはできます。地元でとれた食材をつかったご飯を食べることができるとは思いません。田畑を守り、川を守り、そして水を守ることを残していきたいと思いません。

先人たちが与えてくれたきれいな水に感謝し、私たちも未来にこの水を残していきたいと思いません。